

住吉まつり すみよっさん

廿日市市郷土文化研究会 元会員 桑原貞紀 さくらお 昭和62年6月1日 第42号

住吉まつり すみよっさん

桑原貞紀

住吉さんとは、底筒男命・中筒男命・表筒男命、この三柱の神を総称して住吉神又は住江神といひます。

スミノエとは、水の澄んだ海岸とか河口を意味するとも言われ、古来航海・海上守護・運輸・漁業の守り神です。

この神社は多く海に面して風光明媚なところであり、古くから歌にも詠まれているので、歌道の神様としても仰がれており、現在全国で二千余社有るといわれます。



住吉三神

底筒男命 (そこづつのおのみこと)

中筒男命 (なかづつのおのみこと)

表筒男命 (うわづつのおのみこと)

廿日市の住吉社は、元は潮音寺の近くにあったのが、住吉新開ができてからも、新開の守護神としてまつられて現在のところに移したといわれます。

旧暦六月二十八日・二十九日に祭りが行なわれていました。現在は太陽暦にしてそれに近い日曜日に行なわれています。

漁業者は居なかつたといわれますが、旧廿日市の船手の人々が主として祭り、天満神社の宮司が祭りの儀式を行ないました。

地御前では、旧暦六月十八日管弦祭の翌日に祭りを行ない、廿日市と同じく航海の神様として関係者が祀っております。

地御前神社が岐島神社の境内社として面目を保っていた頃までは、祭りも盛んであったといわれます。

廿日市・地御前とも、旧暦で行なわれた行事は、何れも大潮かそれにかかる時期に当たり、海事を主とした祭り(行事)としては、季節柄ダイナミックな行事の一つであります。